

# 2015年度 中期経営計画

## 食品流通事業

2013年8月26日

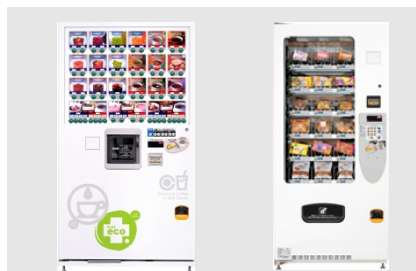
富士電機株式会社  
食品流通事業本部

- 事業概要
- 市場動向・事業計画
- サブセグメント別 事業戦略・重点施策

# 事業概要

## 自販機

### 【自動販売機】



- 缶・ペット自動販売機
- カップ自動販売機
- 食品・物品自動販売機
- 海外市場向け自動販売機

### 【フードサービス機器】



- 自動給茶機
- 清涼ディスペンサー
- コーヒーマシン

- ・自販機国内トップシェア
- ・省エネ技術を核とした環境対応

## 店舗流通

### 【店舗】



- 冷凍・冷蔵ショーケース
- 店舗省エネシステム
- 店舗エネルギー管理システム
- 自動釣銭機

### 【流通システム】



- 要冷・冷蔵設備
- 輸配送システム
- 物流センターシステム

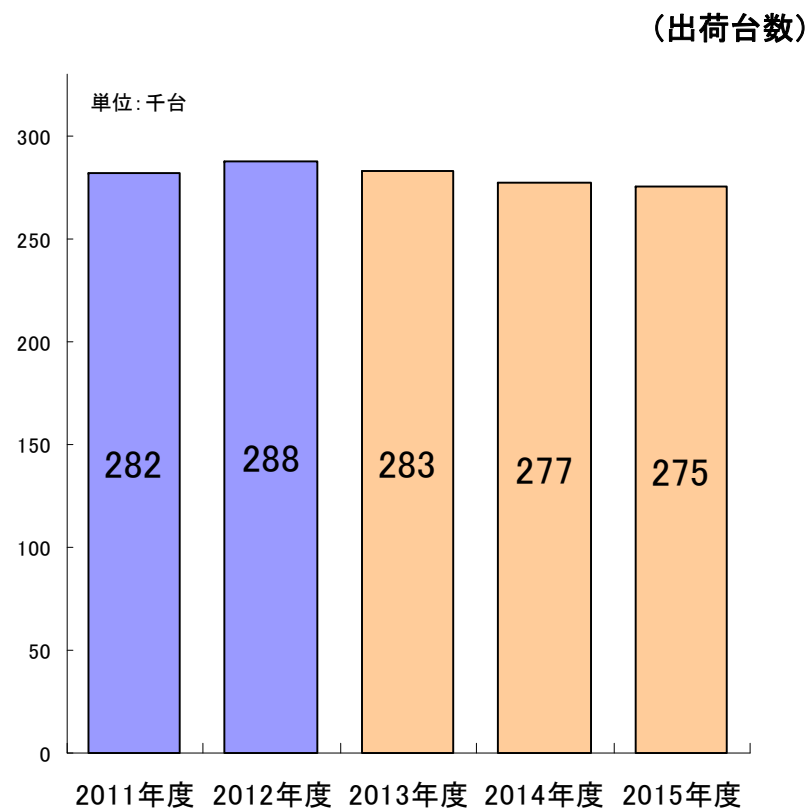
- ・ 店舗内環境の最適化
- ・ ITを融合したシステム制御

# 市場動向・事業計画

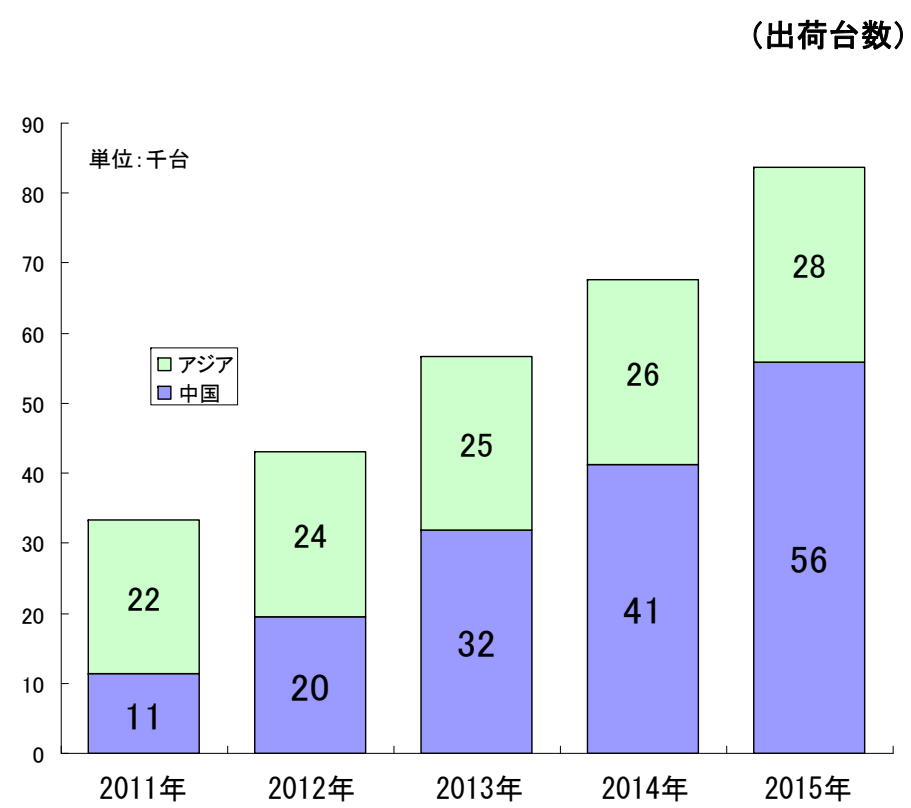
国内の既存市場は横這い～減少傾向であるが、海外市場は拡大傾向にある

国内

海外(中国・アジア)

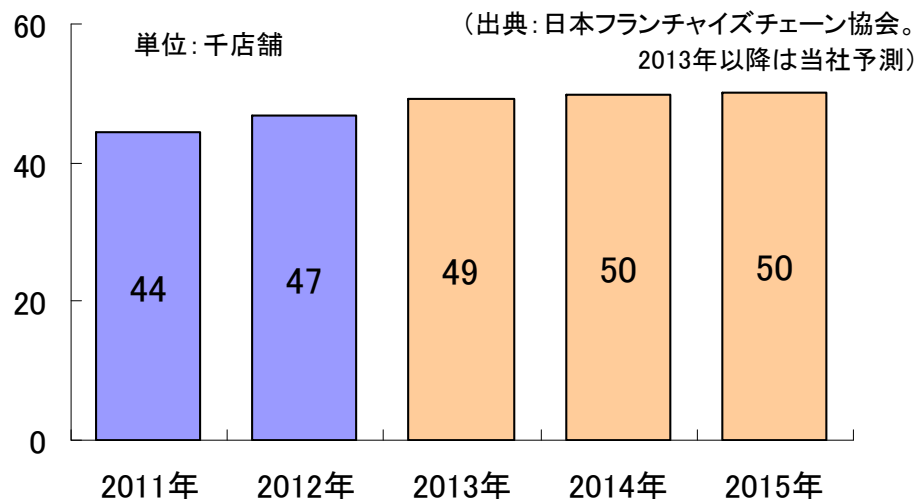


(当社予測)

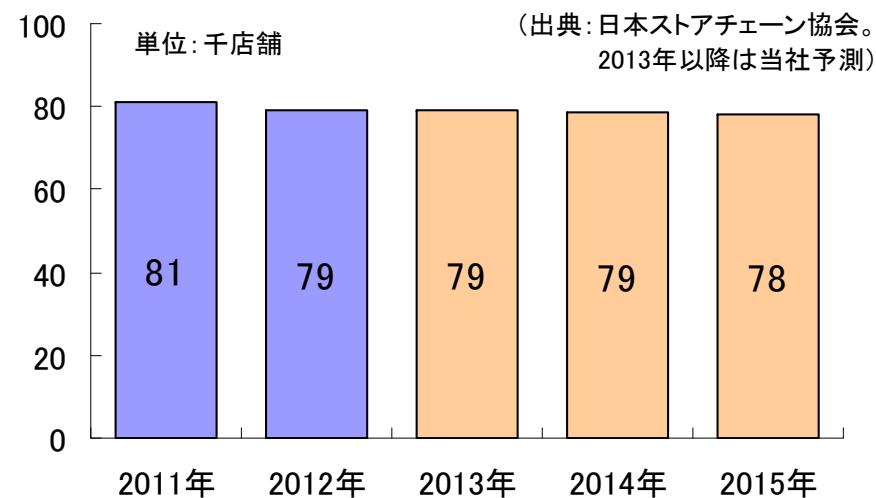


(当社予測)

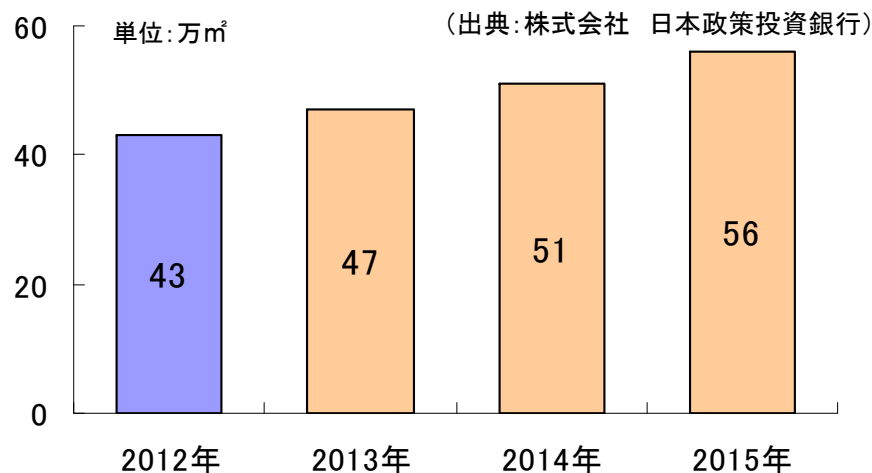
## コンビニエンスストア国内市場(店舗数)



## スーパーマーケット国内市場(店舗数)



## ECマース向け大規模物流施設(国内)需要予測

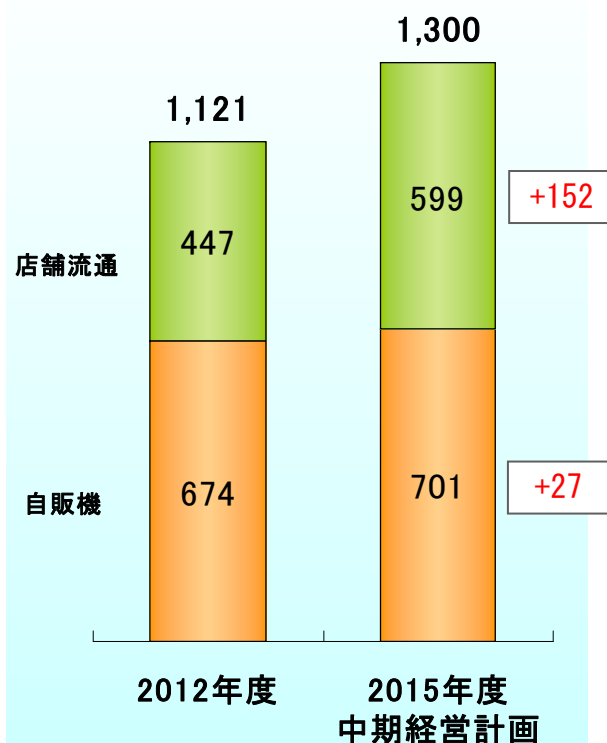


- ・コンビニエンスストアの国内市場規模は現状維持と見るが、改装、新規出店等は引き続き見込める。
- ・スーパーマーケットの国内市場は不況による低迷などで漸減傾向。
- ・要冷物流市場はECマース市場拡大などを受け、大規模物流施設の新設の動きが拡大している。

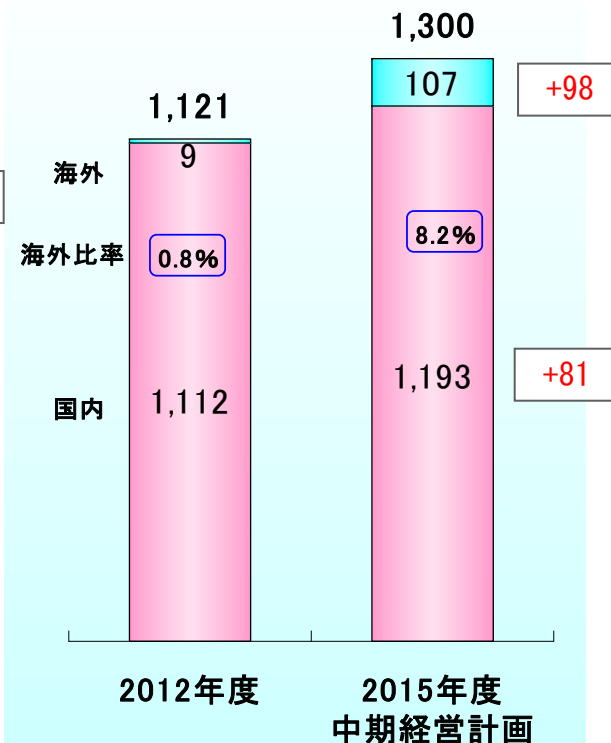
## 基本方針

- ・事業構造改革で基盤強化した既存事業の徹底強化
- ・冷熱技術を活用した店舗流通分野での新事業の拡大
- ・中国・アジア市場での自販機事業の拡大
- ・海外スマート食流通ビジネスの基盤確立

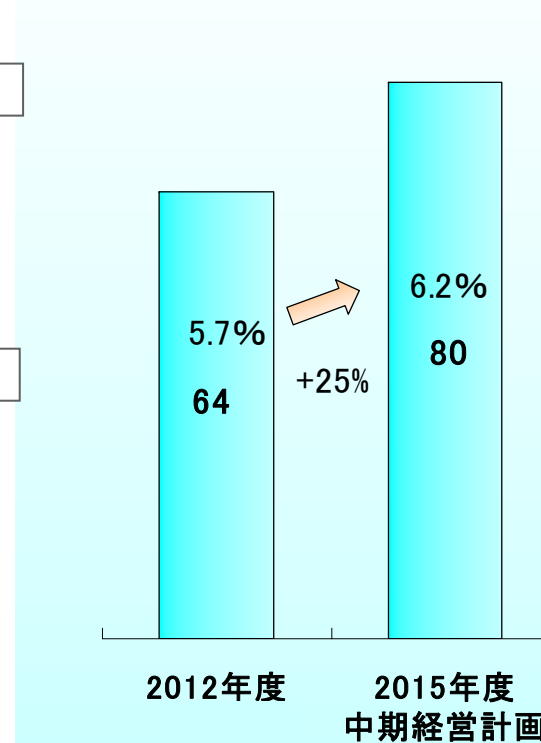
サブセグメント別売上高(億円)



国内・海外別売上高(億円)



営業利益・営業利益率(億円)





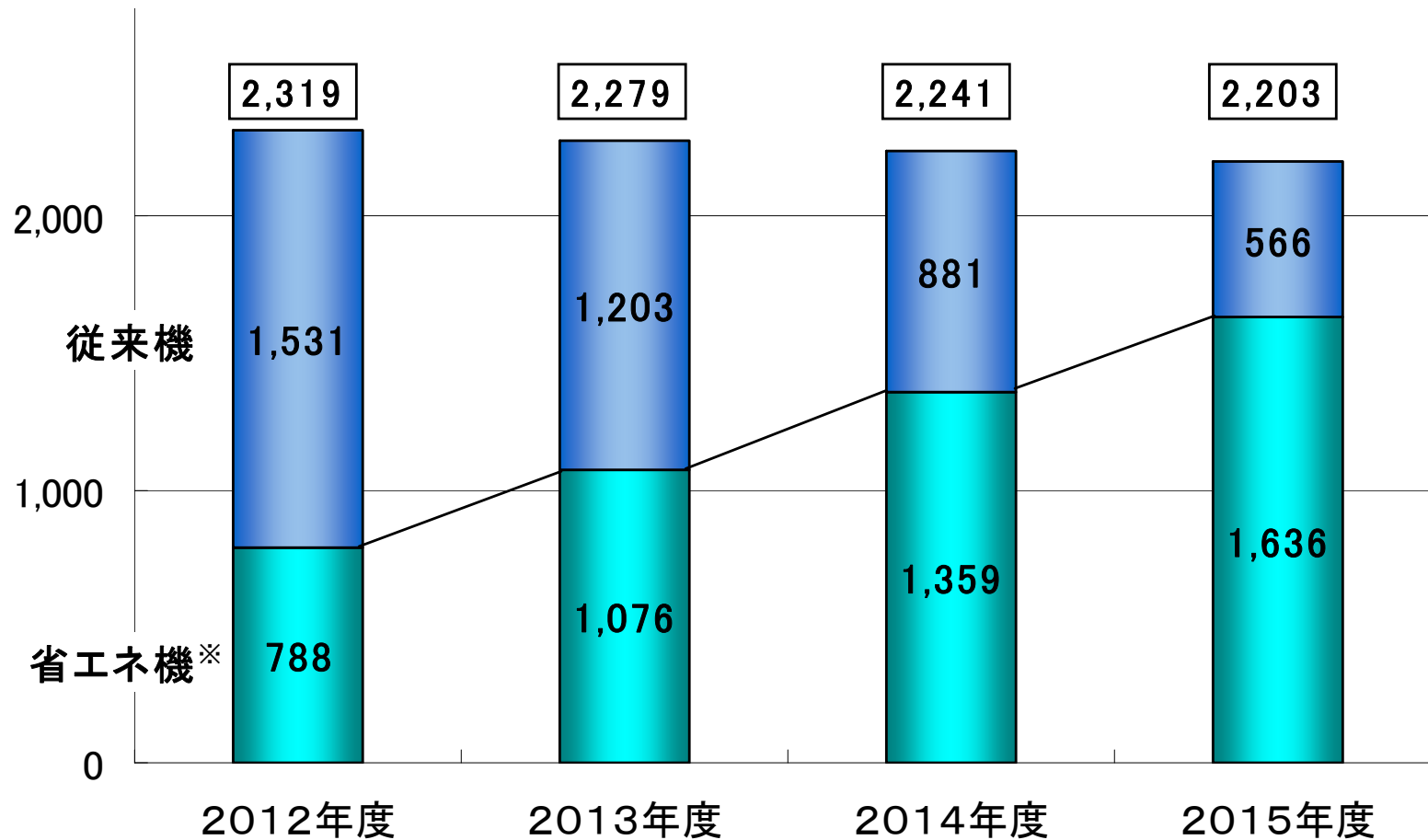
# サブセグメント別 事業戦略・重点施策

## 事業戦略

- 省エネ自販機の新製品投入による国内置換需要取り込み
- 中国自販機の新規顧客獲得、生産能力増強
- タイにおけるグローバル自販機の生産開始

## 環境対応をアピールした省エネ機による置換需要の取り込み

自販機普及台数 (千台)



※ヒートポンプ機および低GWP (地球温暖化係数) 機

(当社予測)

## 顧客との連携強化による差別化製品の開発

次世代ディスプレイ  
(HIM:ヒューマンインターフェイス)

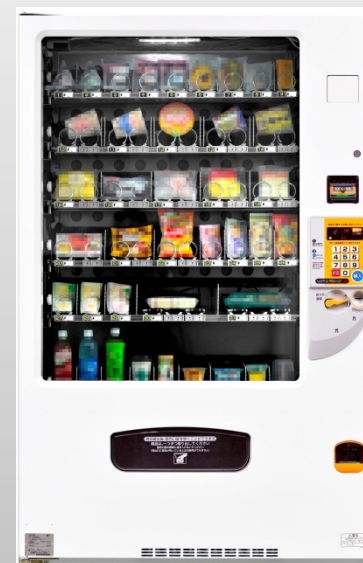
⇒自販機だからできるプロモーション  
(スマートフォンの活用)

無人化店舗  
コーヒーマシン

⇒コンビニエンスストアとの協業



次世代ディスプレイ機  
(写真: (株)JR東日本ウォータービジネス様向け)



無人化店舗向け機材



コーヒーマシン  
(写真: (株)セブン-イレブンジャパン様向け)

## 中国・アジアにおける事業拡大

- グローバルな生産拠点体制の構築
- 海外大手ローカルオペレータとの連携強化および新規オペレータの育成
- 飲料メーカーとのタイアップによる海外展開拡大
- 海外サービス体制の確立

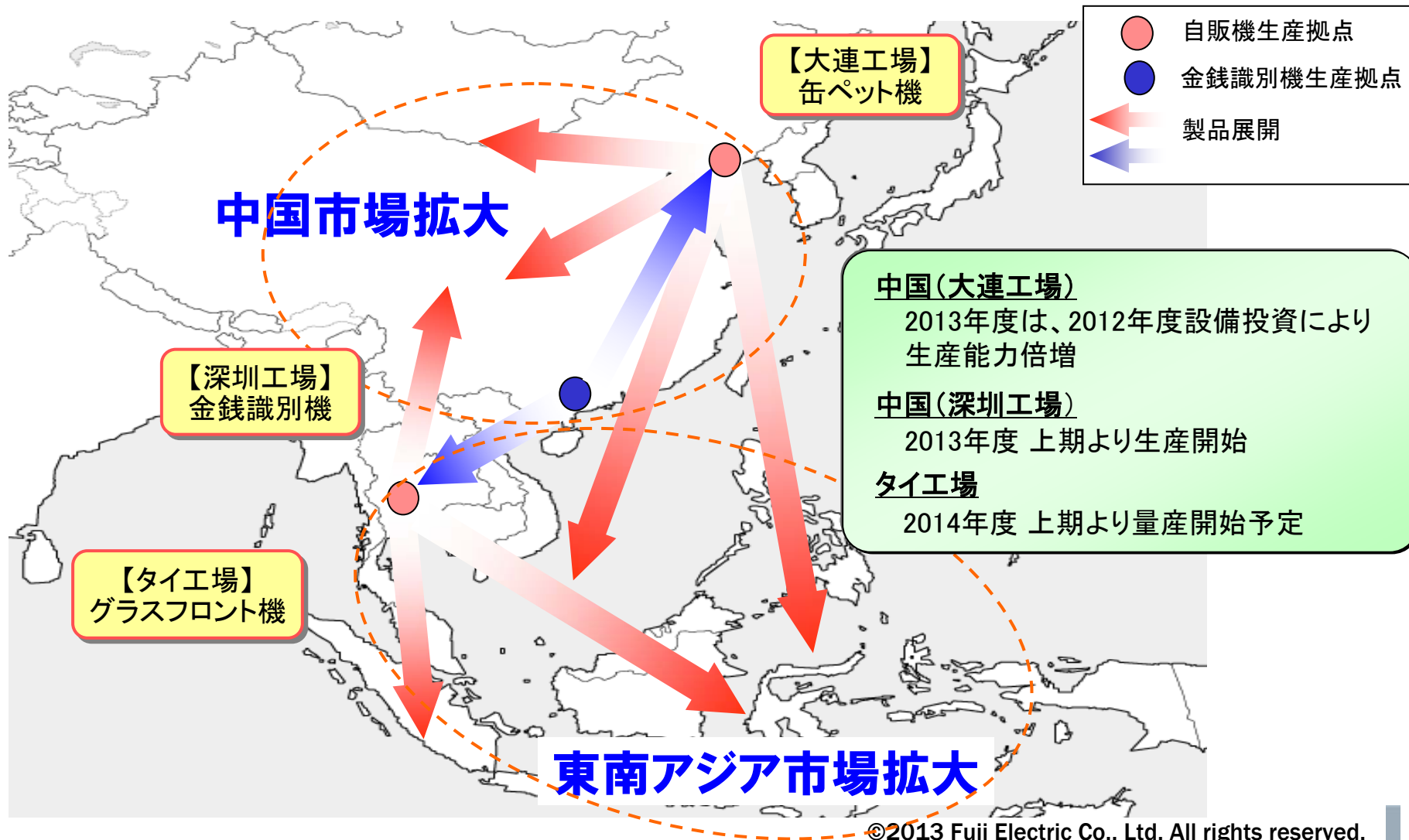


ガラスフロント機 (タイ工場)  
【飲料・食品・物品自販機】



缶ペット機 (大連工場)  
【飲料自販機】

## グローバルな生産拠点体制：国際分業化により最小投資化実現



## 事業戦略

- スマート店舗の拡販
- 自動釣銭機事業の拡大
- 流通システム(要冷物流等)の新事業開拓・拡大

## 顧客戦略

小型店舗  
まるごと最適化

大型店舗へ水平展開

海外展開

## 商品戦略

### スマート店舗の狙い

店舗まるごと最適化

- ①店内環境の最適化
- ②店舗エネルギーの最適化

#### 北九州の事例

情報のクラウド化  
省エネコンサル  
リモートメンテナンス

地域節電所



店舗全体エネルギー  
の最適制御

省エネ空調



LED照明



省エネショーケース



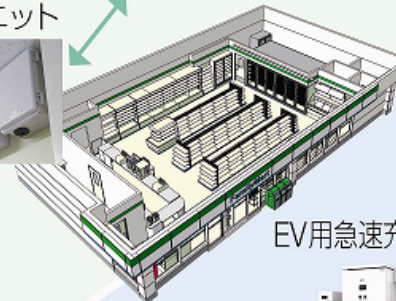
省エネ制御



電力監視  
ユニット



店舗コントローラ



- ・蓄電設備
- ・太陽光発電

スマートメータ



EV用急速充電器



ユニット工法店舗



当社が提供できるその他の製品

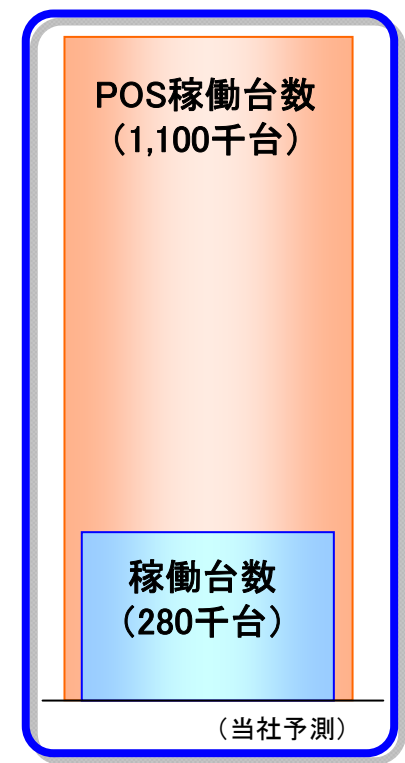
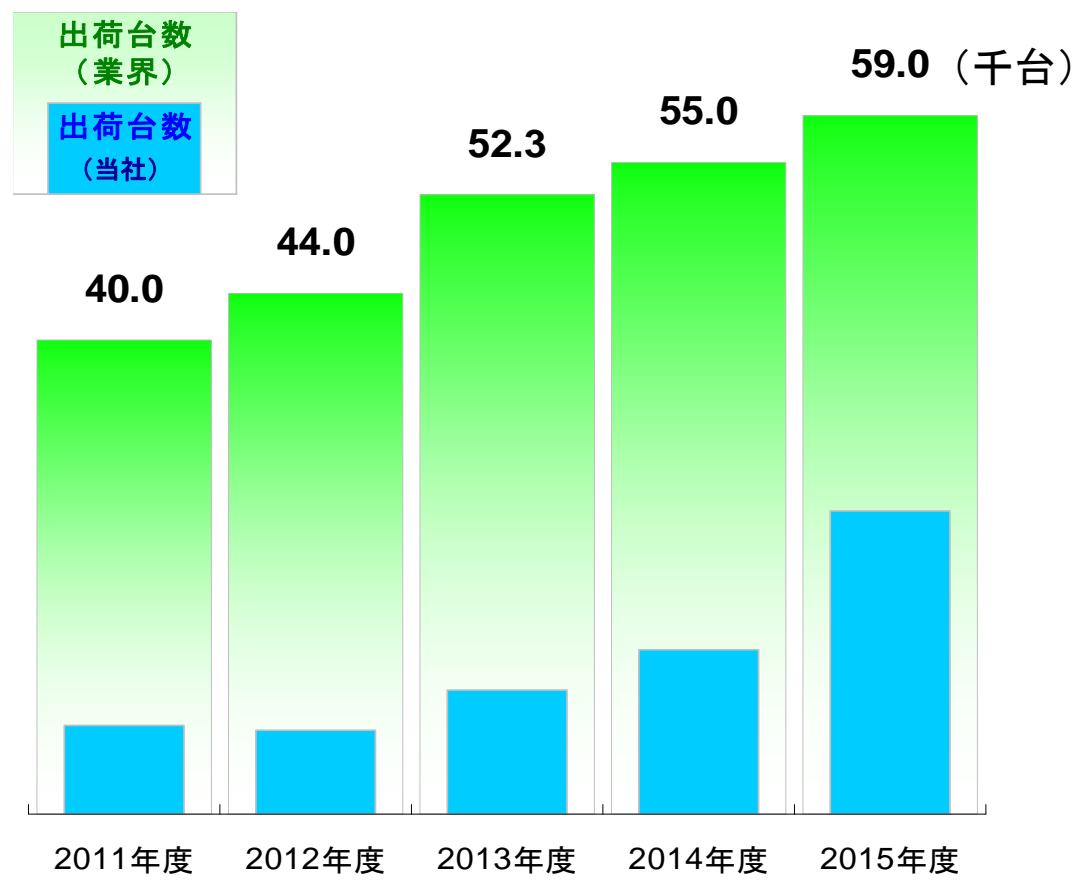


# 店舗流通 重点施策(自動釣銭機)

- 新規・既存市場での拡大
  - ・リプレイス需要拡大
  - ・新機種投入によりシェア拡大



国内自動釣銭機  
の普及状況  
(2012年度末時点)



(出典: 出荷台数(GMS、SM、専門店、外食産業、CVS)は当社予測)

# 店舗流通 重点施策(流通システム 新事業開拓)

要冷物流市場 2012年 2,000億円 ⇒ 2015年 2,600億円

## <市場背景>

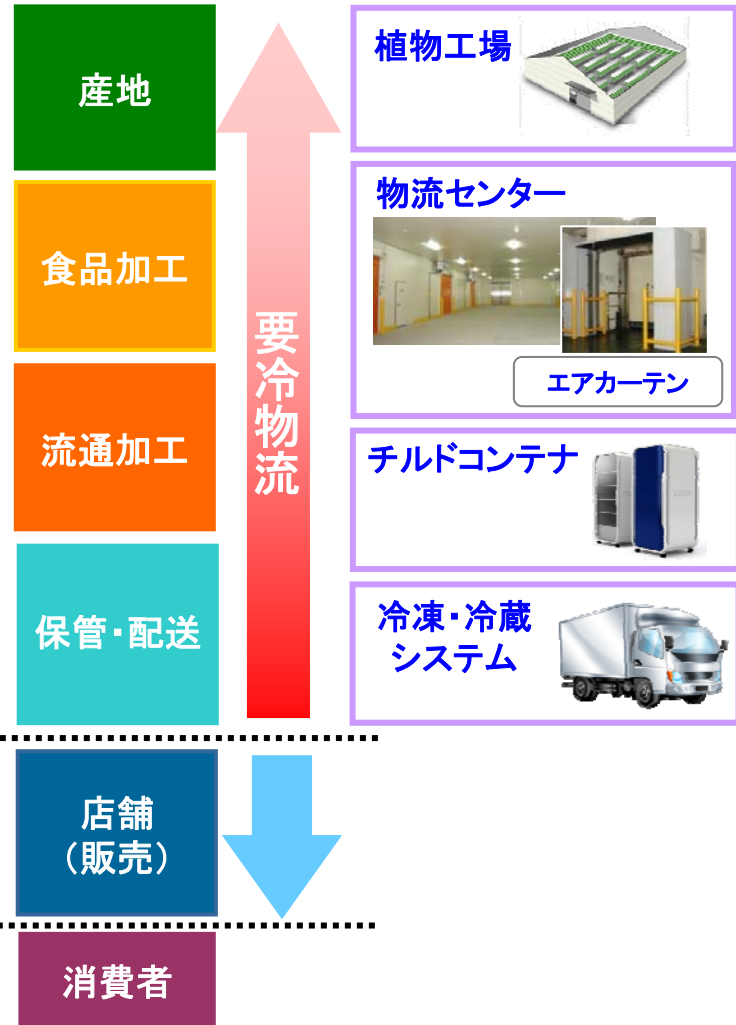
安全・安心、鮮度、効率に対する  
要望の高まり

- ・加工食品ニーズの高まり
- ・個食化、簡便化の拡大
- ・小口多頻度化の浸透
- ・宅配と3PLの強化

小売業の  
業態変化

物流業の  
業態変化

事業ドメインの拡大



## <既存ビジネスモデル>

- ・自販機
- ・スマート店舗

(数値出典：日本政策投資銀行)

# 店舗流通 重点施策(流通システム 新事業開拓)

冷凍・冷蔵設備から電気設備・マテハン\*制御・セキュリティシステムまで、お客様の要望に応じてトータルプロデュース

◆ターゲット: 運輸、不動産、店舗、食品卸、食品メーカー、JA

## 特高受電設備



## 非常用電源



## 無停電電源装置



## 監視制御



## マテハン制御



## 感振センサ



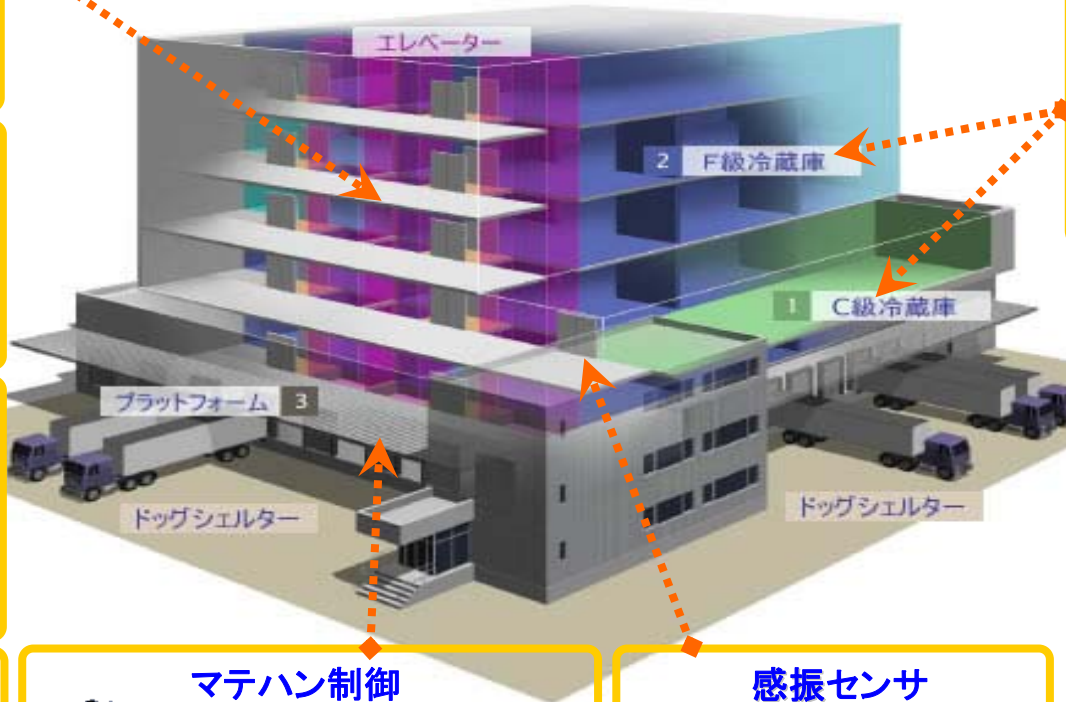
## 要冷倉庫



## チルドコンテナ



## セキュリティシステム (現場モニタリング・入退場管理)



\*マテリアル・ハンドリングの略称

1. 本資料および本説明会に含まれる予想値および将来の見通しに関する記述・言明は、弊社が現在入手可能な情報による判断および仮定に基づいております。その判断や仮定に内在する不確実性および事業運営や内外の状況変化により、実際に生じる結果が予測内容とは実質的に異なる可能性があり、弊社は、将来予測に関するいかなる内容についても、その確実性を保証するものではありません。
2. 本資料は、情報の提供を目的とするものであり、弊社の株式の売買を勧誘するものではありません。
3. 目的を問わず、本資料を無断で引用または複製することを禁じます。